

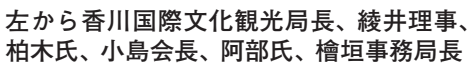
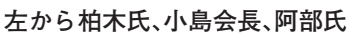
四島のかけ橋

発行所
北方領土返還要求運動
神奈川県民会議
〒231-8588 横浜市中区日本大通1
TEL 045-285-0905
発行人 綾井 祐一



歡談

「いろいろな本当にありがとうございます。私は、県議会議員を十九年やっております。領土教育・領土問題を本会議で一番多く取り上げたのは私だと思っています。残念ながら、尖閣諸島には行ったことがあるのですが、北方領土には、近くにも行ったことがなく、青少年の交流の場にも行きたいと思いつながら、なかなか行けませんでした。是非、



北方領土問題対策協会表彰及び感謝状の伝達式
県民会議 柏木元事務局長 阿部前事務局長の功績評価

題教育者會議（以下「教育者會議」という。）の設立に当たり、準備会、設立総会の運営に御尽力いただくとともに、設立から令和元年十一月までの七年五か月の間、同会議の副会長として、

図り 青少年の啓発事業を推進した。

伝達式では、県民会議の小島健一会長が「青少年及び教育関係者に対する啓発等を通じた運動に励まれてきた。」などと功績を評価。

柏木氏に、北方領土問題対策協会（諸星衛理事長）の

表彰状を、阿部氏に、感謝状をそれぞれ手渡した。

柏木氏は「国家意識や、領土意識、さらには歴史認識、そして、未来をどう見据えるかということ、子どものうちからしつかりと考えていくということが非常に重要だ」という思いから、当時、県教育長をはじめとする県教育委員会の御協力を得て、教育者会議を設立した。子どもたちに啓発が行き届くような取組を、教育者会議、県民会議、

県教育委員会、それぞれの力の中で、取り組んでいただければありがたい。」と話した。阿部氏は「森正明県議会議員が、県民会議会長を務められていた際、「目で見る北方領土」に参加され、根室に足を運んでいたことが大変思い出深い。後世に北方領土返還要求運動をつないでいきながら、しっかりと組織としても、個人としてもバックアップ、サポートしていきたい。」と話した。

灯台

四島のかげ橋も本号でちょうど七十号になります。振り返れば、第一号の発刊が昭和六十二年七月十五日であり、年に二回の発刊ですので、本号で三十六年目ということになります。創刊号をみると、「北方領土返還要求運動神奈川県民会議は、第三回総会を六月十六日(火)午後二時より同三時まで、横浜市中区本町一丁目六番地「横浜市開港記念会館」一階一号室に加盟四十団体代表を集め、昭和六十一年度事業報告、同決算報告を承認するとともに、昭和六十二年度事業計画、同決算報告を全会一致で承認。任期(二年)満了に伴う役員改選では、新たに、神奈川県議会議長の相馬元治氏が、会長に信任された。」との記載があります。また、当時事務局次長であった蓮見勇さん執筆の編集後記をみると、「昭和

次の時代には、何らかの解決策を見つけてくれるのではないかという期待をすごく感じました。」



るか判りませんが、北方領土が何日の日にか祖国に帰る日を願って、本土と北方四島の「かけ橋」が納沙布岬に在るように、私たち県民の一人ひとりが、橋を支えよう、橋に成ろうという意味で「四島のかけ橋」としました。当分の間は、年に一、二回程度の発行になるでしょうが、第二号からは会員のみなさんの投稿を是非お願いしたいと思います。（蓮見）と結んでいます。

また、「四島のかけ橋」第二号昭和六十三年一月一日発行には、「北方領土返還要求運動神奈川県民会議では、昭和六十二年度の新

規視察研修事業として、「目で見る北方領土の旅」を企画し、会員及び一般県民計四十四名の参加を得て、去る十月十五日から同十八日の三泊四日の行程で、北海道東部を巡り、無事実施することができました。」との記載があります。この事業は欠かすことなく令和元年まで「目で見る北方領土」として継続して行われておりましたが、昨年度及び今年度は新型コロナウイルスの關係で一時中断しています。

す。同紙には、第三回「北方領土」神奈川県民大会について記載されています。同大会を振り返ると、約二二〇名の参加を得て開催され、映画「約束」（この映画は広報用として昭和五十六年北方領土問題対策協会が製作したもので、日露通好条約締結の地である伊豆下田を舞台に、北方領土の歴史、条約の締結等を通じた国家間の信義などを綴った映画である。）を鑑賞した後、同映画に愛媛とともに主演した俳優、川津祐介氏であり、「私と北方領土のあい」と称し、講演したいただきました。講演の中で、川津氏は、「幾度かノ連を訪

津戸は「幾度か通を言
なる機会に恵まれた経験を通じて言えば、それの人々も同じ血の通った人間であった。北方領土問題の解決には力の対決によらず、あくまでも平和的に行わなければならない。」との「民間外交」、「民間交流」を通じての、北方領土問題への所感が述べられた。私も同講演を聴き、北方領土への認識と理解を深めました。

このように過去の「四島のかけ橋」を振り返ると、本紙の誕生秘話や視察研修事業「目で見る北方」の第一回目の様子がわかり、まさに本紙が県民会議の歴史そのものであることがわかります。

さて、最近の県民会議の事業ですが、昨年に続く新型コロナウイルスの影響で県民大会など一堂に集まっていたの事業は出ていませんが、SNSによるパネル展の開催模様の発信やYouTubeなどを使った「北方領土セミナー二〇二一-INかながわ」の開催などを行っています。今年の県民大会も今後の様子を見ながら開催できれば良いかと考えています。

（綾井）

「北方領土セミナー2021 IN かながわ」 YouTube生配信

二〇二一年十一月十二日(金)、「北方領土セミナー2021 IN かながわ」を開催した。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、例年十一月に開催している「北方領土返還要求運動神奈川県民大会」に代え、セミナー形式で会場への参加人数を絞り、YouTube生配信をするというハイブリッド方式での開催となった。

主催者の小島会長の挨拶の後、来賓の黒岩祐治神奈川県知事からのメッセージ動画が放映された。黒岩知事からは、ブラウンリボンバッジの紹介とともに、元島民の現状を踏まえ、返還運動の機運を高めていこう

との力強いメッセージなど、当県民会議の活動への敬意と今後の運動への激励をいただいた。

続いて、野村半島から望む国後島、北方四島交流センター(二・ホ・ロ)の館内展示の解説、小田嶋北方館館長による北方館内、同館周辺の納沙布岬、四島のかけ橋、折りの火などの案内から構成される、「根室から見る北方領土ツアー動画」が放映された。同動画は、例年、県民会議が会員を対象に実施している「根室市」の「北方四島交流センター」や「北方館」などを訪問する視察事業、「目で見える北方」の代替事業として、オンラインツアーをヒントに制作したものであ

る。次に、Zoomによるオンライン形式で根室市の北方四島交流センター(二・ホ・ロ)の視聴覚室と会場とを中継し、歯舞群島多楽島元島民の河田隆志氏から、終戦直後のソ連兵上陸時の島内の混乱、同氏が兄と二人きりで島を脱出したことなどを御講演いただいた。(講演要旨別掲)



○会長挨拶
https://www.youtube.com/watch?v=CB4I2_6stZE



○知事メッセージ
<https://www.youtube.com/watch?v=3Ssa8hZSDo8>



○根室から見る北方領土ツアー動画
左は北方館にて解説をされる小田嶋北方館館長
<https://www.youtube.com/watch?v=AHuW47JigRk>

「NTV」にてアーカイブを公開中なので、是非、下記URL又は二次元コードからアクセスいただき、御覧いただきたい。

○歯舞群島多楽島元島民の河田隆志さん

オンライン講演要旨
終戦直後、島民の間では、ソ連兵に子供がさらわれ、売り飛ばされる等の流言飛語が飛び交い、混乱が広がった。ソ連軍上陸後、島内の日本兵は投降し、ソ連軍に連行されていた。一方、ソ連兵は、一軒一軒の家に土足で上がり込むなどしたため、島民のなかには、不安にかられ、島を夜陰に乗り出して脱出する者も出てきた。こうした中、河田さんの御父様は、「ここは日本なのだ。ここは多楽で我々の島なのだ。どこにも逃げないよ。」

こにずっとこのまま、後、二軒となるまで島にとどまり、島に人たちも強制送還されはじめ、河田さん

御兄様とたった二人で島を出て、根室に向かうことになった。

御講演後、参加者からは、「特に若い人たちにに向けて、一つだけどんなことに取り組んでほしいか、根室からの思いを含めて、もう一言だけいただけたらありがたいです。」との質問があった。河田さんのお答えは、次世代に北方領土問題を繋ぎたいという切実な思いに溢れる、若者へのメッセージであるので、次の通り原文のまま掲載させていただく。

私、先ほども言いましたけれども、今、八五歳です。元島民は当時一万七千人以上いたんです。今は五千五百人くらいしかもう生きていません。したがって、一万七千人以上いたときには、まだ北方領土返還要求運動は随分盛んに出来ていたんです。これからだんだん私たちは歳をとってき

て、いくら頑張ってもこれ以上長く、返還要求運動を盛大に続けていけなくなると思ってしまう。したがって、これからはどうしても、返還要求運動は若い人にもやってもらわなきゃならないと思っている。

返還要求運動はどういうことをやるのだという御質問。

問もあるが、先ほど黒岩知事がお話してくださったように、私たちは自分たちで直接交渉できません。政府にやってもらわなければなりません。したがって、その政府の交渉の支えをする、なんとか政府の後押しを、頑張るというのを、ぜひお願いする運動をしなければならぬ。

それからもう一つは、北方領土返還要求運動を一生懸命やっているのだということを、どうぞプーチン大統領にも分かるように。今は、「返せ、返せ」と言うのはほんの一部ではないかと、日本全部でやっているわけではないんじゃないかと思う。軽く見られていると思うが、日本の人たちが、大多数が、返還要求運動をやっているというのを、プーチン大統領にも分かってもいい。そのためには、全国の若い皆様にも是非参加していただくようお願いしたい。こういうことを、今、私は思っているわけです。よろしくお願いします。

○根室高校
オンライン発表要旨
根室高校二年の北壮矢さん、佐藤聡太さんに北方領土出前講座を実施いただいた。

○根室高校
オンライン発表要旨
根室高校二年の北壮矢さん、佐藤聡太さんに北方領土出前講座を実施いただいた。

北さんからは、北方領土が江戸時代から他国に先駆けて祖先が開拓してきた土地であり、これまで、他国の土地となつたことのない、まさに、我が国固有の領土であるという土問題を歴史的背景を交えて発表いただいた。また、北方領土の現状については、「クリル諸島社会経済発展プログラム」という、四〇億円の開発が進められ、自然環境の破壊が危惧されている状況について発表いただいた。

佐藤さんからは、返還要求運動について北方領土根室研究会の活動とあわせて発表いただいた。返還要求運動の活動は、今回の出前講座のほか、地元FMラジオで「根室高校北方研」といった放送をするなど多岐にわたること。なお、この番組は、インターネットを通じて全国で聴くことができるのとことなので、是非、お聴きいただきたい。発表後、参加者からは「研究会に入れたさっか

けと、活動を通して一番伝えたいことを教えてほしい」との質問があった。北さん、佐藤さんの回答はそれぞれ次のとおり。

「今回の講座のように、たくさんの方にこの北方領土について知ってもらいたいことが大事だと思います。このような講演を行うことで、たくさんの方に北方領土が、今、どのような扱いを受けているのかということを知ってもらい、そういうものがない、やほり、話題にも上がらなくなつて、北方領土問題が風化してしまう可能性がある、自分たちは考えているので、この現状を知ってもらって、皆さんの協力してもらって、なんとか返還してもらおう」ということを考えています。」

「まず、一番伝えたいことは北方領土の現状について、知ってもらいたいことです。部活に入ったきっかけは、自分も住んでいるところが北方領土に近いところだから、北方領土については何とかしたいという気持ちから、北方領土の現状やそういう歴史や地理的なことを知ってもらって、その現状を知ってもらって、皆さんの協力してもらって、なんとか返還してもらおう」ということを考えています。」



○元島民講演
<https://www.youtube.com/watch?v=iFW1uyEajfs>



○根室高校北方領土根室研究会発表
左が北さん、右が佐藤さん
https://www.youtube.com/watch?v=Jf64_uw1X5Y

二月七日(月)は 「北方領土の日」

一八五五年の二月七日(旧暦では安政元年十二月二十一日)、伊豆の下田に

おいて日露通好条約が調印された。この条約で日露兩國の国境が平和裏に定められ、北方四島が日本の領土として初めて国際的に明確になった。そうした経緯を踏まえて、北方領土問題に

対する国民の関心と理解をさらに深め、全国的な北方領土返還運動の一層の推進を図るため、一九八一年一月六日の閣議了解により、二月七日が「北方領土の日」として定められた。

手を繋ぎ 返還願う 大きな輪

令和三年度
北方領土に関する標語・キャッチコピー
〈最優秀賞〉

京都府宇治市 河谷亜翔夢さん



横浜駅メディア「相鉄ステーションビジョン」



相鉄線車両「トレインビジョン」

相鉄線・横浜市営地下鉄・相鉄線横浜駅で 北方領土に関する県民会議のCMを実施!!

県民会議では、二月七日「北方領土の日」以降、相鉄線・横浜市営地下鉄の車両及び相鉄線横浜駅で、北方領土に関する啓発映像を放映する。

一回三十秒のCMが、相鉄線は全線、約百七十両の

編集後記

◇教育者会議では、今年度も作文コンクールを実施し、中学生、高校生から三百二十五作品の応募があり、十三作品が表彰されました。同会議を創設し、長年にわたってお支えくださった元県民会議事務局局長で前連合神奈川会長の柏木教一氏に、独立行政法人北方領土問題対策協会表彰が授与されるなど、教育者会議は、全国でも高い評価を得ています。

小島健一会長(神奈川県民会議議長)におかれましては、「北方領土パネル展2021 IN かながわ」会場にお越しいただき、誠にありがとうございます。また、「北方領土セミナー2021 IN かながわ」にて御挨拶いただき、誠にありがとうございます。コロナ禍で手探りの県民会議の広報啓発活動をお支えくださっているところで、小島会長、引き続き、県民会議の広報啓発活動に御協力をよろしくお願い申し上げます。(綾井)